

## 切なるお願い

当誌読者の皆様には、これから私の正直な弱音(毒)を吐き、坊さんの「本音」を語らせていただきます。人間、時にはこんなことも必要でしょう。少しの間、ご辛抱いただきますよう、お願い申し上げます。

今、7月14日夜、7月盆(新暦盆)の5日間の盆参りが終わり、安堵しつつ、この原稿を書いています。例年通り相棒M君と500軒弱の盆参りをしました。岐阜県では、美濃加茂市など東濃地方と岐阜市中心部の柳ヶ瀬付近が新暦でお盆を迎えます。

8月盆との大きな違いと7月盆のお参りの難しさは、梅雨時のまだ体が十分に暑さに順応していない状態で臨まなければならない点です。特に昨年は、7月10日に岐阜県地方は「梅雨明け」となり、連日真夏の「カンカン照り」でした。7月盆で一度も傘を使用しないことは初めてです。私もこれまで「暑さ」を甘く見ていたことに気づかされました。「もう、若くないのだからと…」と、知人から忠告されていた矢先の出来事です。お参り最中に溢れ出る汗が止まらなくなり、やがて寒気がしてきました。意識が朦朧としてきましたが、お経だけは称え続ける我が身が不思議に思え、「蜃気楼」のような、ある意味貴重な体験をしました。

そんな命の危険を感じた昨年の経験から、今年の色々対策を致しました。まず基本中の基本、襦袢の下には、ユニクロ製の「エアリズム」を



着用すること。これは私たち数年前から常識とされていた事。更に今年、相棒M君は、移動中の日傘に「小型扇風機」付きのもの用意してくれました。そんなものが存在することも驚きですが、楽天で購入したそうです。初日はバカにしていたのですが、これが使用してみるとかなりの威力で、私も早々購入しました。

「風」は重要なポイントです。エアコンは、お部屋に入った瞬間は「涼しい！」と極楽浄土を感じますが、汗は全く引きません。団扇の風でも汗は止まります。汗が引けば体力も温存されます。是非、「扇風機」を御用意いただきたいと思います。しかし、ここにも問題点が…

檀家の皆さんは、僧侶の後方に扇風機を設置されています。そうすると、その風で蠟燭の灯が消えそうになり、そこで夫婦喧嘩が始まるパターンを多く見ました。僧侶後方に設置した奥さんが責められるのは気の毒です。それではどうでしょう、私の提案です。扇風機は出来る限りお佛壇と平行線上に設置し、斜め45度の角度でお坊さんに向けて風を送ることを提案いたします。この際、首降り機能は不要です。「直球」でお願いします。お坊さんの後方位置からの送風ですと、お坊さんの汗臭い風がお佛壇に直撃いたしますので避けたいところです。

最近の異常気象、寺方も命がけの「盆参り」です。何卒ご協力を願います。失礼しました。

俊徳丸